■

表紙作品解説

秋虫瓜蔬図　一幅　跡見花蹊筆

明治15年（1882）　146.0×87.0cm　絹本著色

跡見学園女子大学花蹊記念資料館蔵

明治15年9月中旬、蚊も飛ぶ未だ夏の面影の残るある日、跡見花蹊は自らの菜園を歩き、実りの時期をむかえた野菜や昆虫を写生した。画賛によれば、描き終えた後は壁に貼り、香をたき、静かに座ってその出来栄えを見ていたという。

野菜類は糸瓜（へちま）、南瓜（かぼちゃ）、紫茄（なすび）、鬼灯（ほおずき）、玉蜀黍（とうきび）で、その中に胡蝶（こちょう）、寒蟬（ひぐらし）、螽斯（きりぎりす）、絡緯（くつわむし）、蜻蛉（とんぼ）、蝸牛（かたつむり）、蟷螂（かまきり）を配している。画面下方の南瓜には、ハナアブ、ショウリョウバッタ、クルマバッタも加えられている。この端正に描き込まれた色鮮やかな菜園風景は、たまたま訪れた客人も思わずその手本の有無を尋ねてしまうほどの完成度の高さであった。

跡見花蹊は、このとき43歳。確かな観察力と的確な構成力で、ごくありふれた菜園を豊穣の楽園に変えている。

写真提供：跡見学園女子大学花蹊記念資料館

文　：学芸員　渡辺　泉